

JapanNet認証サービスを利用した社内情報システム

遠藤 淳*
桑原 悟**

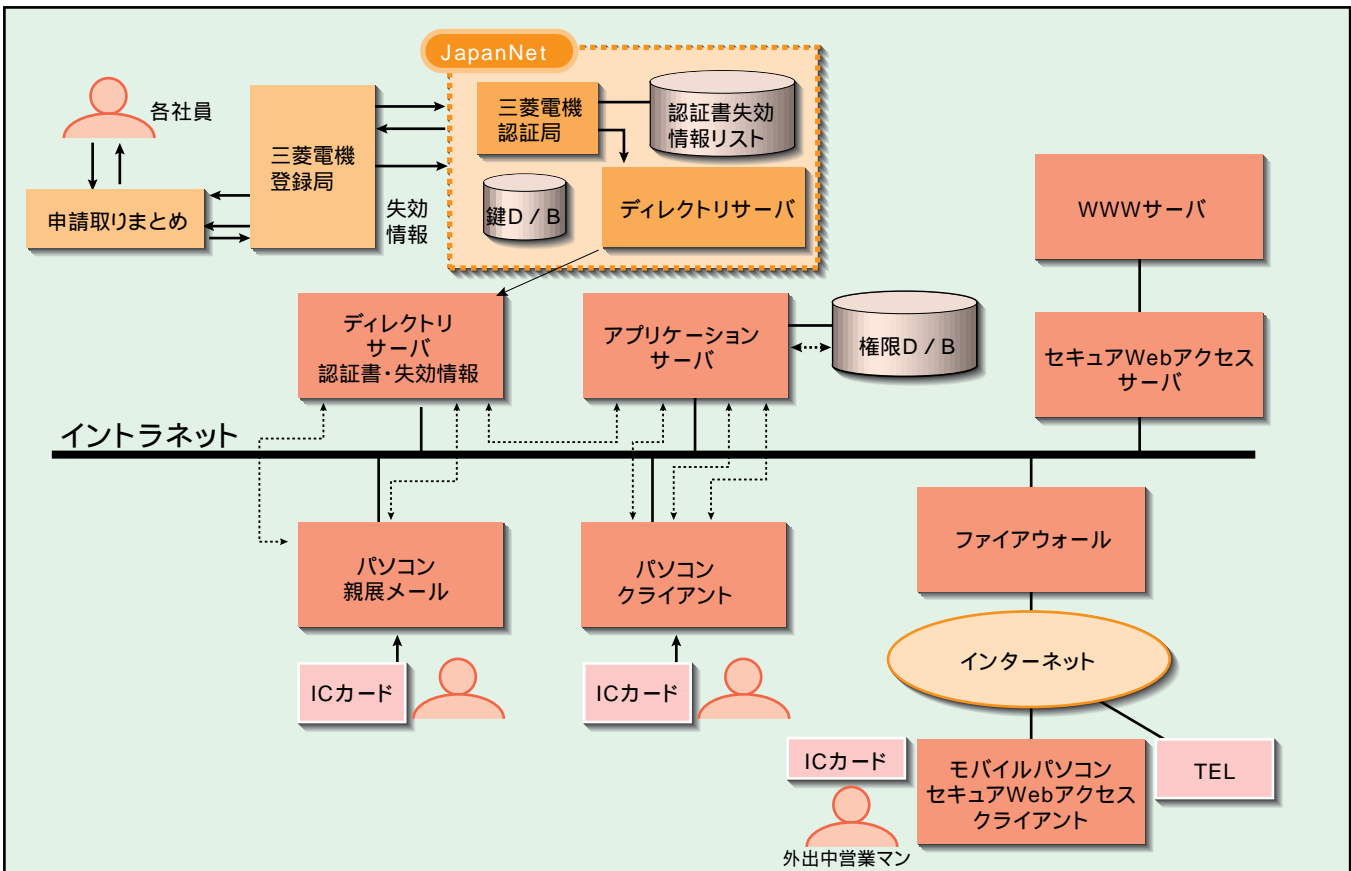
要 旨

近年の急速なインターネットの普及により、オープンアーキテクチャなインターネット技術を利用したネットワークコンピューティングによる企業内経営基盤の再構築が始まっている。企業では、パソコンやLANの普及をベースに、部門間・企業間の相互接続性や安価なシステム構築コスト等のメリットから、デファクトスタンダードなインターネット技術を利用した社内網(イントラネット)の導入検討が行われている。三菱電機のイントラネットである“MELIT”も部門LANの拡張とともに年々拡大し、情報化オフィスのインフラとしての活用が期待されている。しかし、オープンアーキテクチャなネットワークは、従来のクローズドなネットワークシステムに比べて不正アクセスの脅威が増大することから、情報の秘匿や利用者の識別(個人

人認証)などのセキュリティが重要な課題となっている。

当社では、データの暗号化と個人認証を実現する情報セキュリティ環境を構築するため、第三者機関の認証局(JapanNet)を利用した認証システムを導入して運用評価している。

数年後には、社員に秘密かぎ(鍵)と認証書が格納されたICカード社員証を配布して、役職や業務等の権限データベースと組み合わせて利用することにより、ネットワークでの盗聴、改ざん、成り済まし、否認といった脅威を意識せずに、メールによる人事秘の親展送信や幹部への経営支援情報の公開、出張先からのWeb情報へのアクセス等、様々なアプリケーションが実現できる情報セキュリティ環境の構築を目指している。



社内認証システムの将来構想

将来の社内認証システムでは、認証局で発行する秘密鍵と認証書を格納したICカードを社員に配布し、権限データベースと組み合わせて利用することにより、イントラネット上に構築した様々なアプリケーションシステムをネットワーク上の脅威から守り、安全に運用することができる。